

7.4 Symposium

負の歴史を人々は どのように見つめて いるのか

クメール・ルージュ以後の
カンボジアにおける社会復興から

[日時] 7月4日(土) 13:00-16:45

[会場] 早稲田大学 /
早稲田キャンパス26号館多目的講義室 (B104)

[入場料] 無料

[主催] 一般社団法人KOBO **KOBO**

[助成] トヨタ財団

(トヨタ財団研究助成プログラム2013年度共同研究A1)

[お問い合わせ] 169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1
早大西早稲田ビル503 牧野研究室

[Mail] info@kobo-project.com

7.4 Symposium

負の歴史を人々は どのように見つめているのか クメール・ルージュ以後のカンボジアにおける社会復興から

[日時]7月4日(土) 13:00-16:45

[会場]早稲田大学／早稲田キャンパス26号館多目的講義室(B104)

[入場料]無料 [定員]80名(先着順)

第1部

13:00-13:20 挨拶 牧野冬生(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・助教)
13:20-15:00 映像鑑賞 **WOMEN'S HEARING WITH THE YOUNG GENERATION**
ENEMIES OF THE PEOPLE その他

15:00-15:15 休憩

第2部

15:15-15:55 講演① 牧野冬生(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・助教)
講演② 中川香須美(バンニャサストラ大学国際社会学部・教授)
15:55-16:45 トークセッション
中川香須美(バンニャサストラ大学国際社会学部・教授)
本多美樹(早稲田大学社会科学総合学術院・准教授)
島崎裕子(早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・助教)
牧野冬生(モデレーター)

カンボジアは、クメール・ルージュ政権による自国民同士の虐殺とそれに続く内戦の終結後、国際連合カンボジア暫定統治機構(UNTAC)による支援を経て、新たにカンボジア王国を復興させた。1999年にASEANに加入以後、国際社会の枠組みの中で経済的にも復興を続け、現在は持続的な成長に向けて新たな段階に入ったといえるだろう。その復興過程は、言わば個人同士、家族・親類、コミュニティ、地方行政、国家など様々なレベルの関係性を新たに作り上げていく歴史であった。

こうしたカンボジア復興の歴史のなかで培われてきた「他者との関係性」は、人間関係を含む新たな社会関係の構築プロセスに役立てることが出来ると私たちは考えている。それは、近年にみる農村から都市への新たな移住者であったり、都市から農村への移住者、移住労働からの帰還者や人身取引の被害等に 関わって故郷への受け入れが困難になった者だったりなど、社会的マイノリティがどのようにマジョリティとの関係を作っていくかという問題を含むものである。

同時にこれは、グローバリゼーションを背景に発生する多様な国・地域・社会にも通ずる課題への取り組みのひとつともなるだろう。人の移動によって発生する「他者との関係性の構築」に向けて、このカンボジアにおける「自己と他者の関係性」は、ひとつの示唆を与えてくれる。こうした他者との新たな関係性の構築は、日本にとっても喫緊の課題である。高齢化と人口減少を抱えた日本社会は、今後多くの移民を受け入れていくことが重要な選択肢のひとつとなる。本シンポジウムでは、持続可能な社会的基盤整備を支える思考法のひとつのヒントを探りたい。

[映像概要]

WOMEN'S HEARING WITH THE YOUNG GENERATION

The Khmer Rouge regime, as the Cambodian people and the world have come to know, was a genocidal regime that killed almost two Million Cambodians between 1975 and 1979. This regime has been considered as the darkest chapter of the Cambodian history. During that era, Cambodian people, especially those living in the capital of Phnom Penh and in various towns across the country were forcibly transferred to remote areas of various provinces—where they were to perform farming. In general, the Khmer Rouge forced the people to overwork in return for extremely limited food that was barely enough. Moreover, throughout the period, the people faced bitter tragedies and grave and brutal violations of their rights. These include violations of the right to live, the right to choose their own spouse, and accusations against innocent people of being enemies who were subsequently tortured and executed. Nonetheless, one form of violence committed by the Khmer Rouge is still neglected—gender-based violence.

(Introduction, WOMEN'S HEARING WITH THE YOUNG GENERATION PANEL STATEMENT 2013, - See more at:<http://gbvkr.org/wp-content/uploads/2013/11/Women-Hearing-2013-Panel-Statement-EN-final.pdf>)

ENEMIES OF THE PEOPLE

The Khmer Rouge ran what is regarded as one of the twentieth century's most brutal regimes. Yet the Killing Fields of Cambodia remain unexplained. Until now. In ENEMIES OF THE PEOPLE the men and women who perpetrated the massacres – from the foot-soldiers who slit throats to the party's ideological leader, Nuon Chea aka Brother Number Two – break a 30-year silence to

give testimony never before heard or seen.
(- See more at: <http://enemiesofthepeoplemovie.com/Film/Story#sthash.ABbaHUMQ.dpuf>)

[パネリスト]

牧野冬生 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・助教)
早稲田大学理工学部情報学科卒業。同大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学修士課程、同博士課程修了。早稲田大学芸術学校建築設計卒業。博士(学術)。1級建築士。駒沢女子大学専任講師、早稲田大学アジア太平洋研究センター助手を経て、現職。受賞歴：2008年フィリピン国防省主催生活改善プログラム「Be Better, Build Better Program」フィリピン国防大臣賞、2009年早稲田大学小野梓記念賞(学術賞)受賞、2009年(財)都市づくりパブリックデザインセンター主催第11回「まちの活性化・都市デザイン競技」奨励賞、彦根市長特別賞。

中川香須美 (バンニャサストラ大学国際社会学部・教授)
大阪大学大学院国際公共政策科修了。在カンボジア日本大使館専門調査員、国際協力機構(JICA)専門家などを経験し、現在はコンサルタントとして国際機関・カンボジア政府・非政府組織などの仕事に従事。2014年に内戦時代の性的マイノリティに対する性犯罪の調査を実施。2015年には、国連人口基金、国連ウーマン、カンボジア内務省(国家警察)、国際非政府組織のコンサルタントとしてカンボジア各地を飛び回る。現在は、カンボジア内戦期に妊娠・出産した女性に焦点をあて、カンボジアの7州で聞き取り調査を実施中。

[トークセッション]

本多美樹 (早稲田大学社会科学総合学術院・准教授)
英語学位プログラム「現代日本プログラム(CJSP)」担当。早稲田大学Institute for Asia Human Community(AHC)研究所研究員。博士(学術)。成蹊大学卒業後、英字紙ジャパンタイムズ記者を経て、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程、同博士後期課程修了。専門は、国際関係学、国際機構論、伝統的/非伝統的安全保障、国連研究。主な著書として、『国連による経済制裁と人道上の諸問題：「スマート・サンクション」の模索』(2013年、国際書院)、『北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか』(編著)(2012年、勁草書房)がある。

島崎裕子 (早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・助教)
早稲田大学アジア研究機構Institute for Asia Human Community(AHC)研究所研究員。博士(学術)。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程修了。早稲田大学アジア太平洋研究センター助手、早稲田大学グローバルCOEプログラム・シニアフェロー、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て現職。専門は、国際関係学、社会開発、人権、ジェンダー。カンボジアの人身取引の調査研究を2004年から実施。現在は人身取引と移住労働の関係に着眼し「カンボジアにおける移住労働のジェンダー分析調査(科学研究費助成事業)」を遂行中。

[主催]一般社団法人KOBO KOBO
[助成]トヨタ財団
(トヨタ財団研究助成プログラム2013年度共同研究A1)
[お問い合わせ]169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1
早大西早稲田ビル503(牧野研究室内)
[Mail]info@kobo-project.com